贖罪。

シュレディンガーの羊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
贖罪。

【Ｎコード】
Ｎ３６６７Ｗ

【作者名】
シュレディンガーの羊

【あらすじ】
だから、どうか俺を許さないでほしい。

俺に盾はいらない。
ただ、剣と折れない心があればいい。

俺を許さないでほしい。
優しい君はいつでも一人で泣いていた。
周りには明るさばかり振り撒いているのに。
俺はそんな君を守る剣になりたかった。
例え、君がそれを望まなくても。
もう誰からも君が傷つけられるのは見たくない。
本当は知っている。
きっと君は俺が剣を振るうことを悲しむだろう。
そして、それが君を守るためだと知れば苦しむだろう。
けれど、それを知っても俺は剣を振りかざすのをやめない。
だから、俺を許さないでほしい。
そうすれば、俺は俺のために剣を振るうことができる。
俺が俺の意志で動いた結果。
黒く赤く染まるのは俺だけでいい。
だから、どうか笑っていて。

だから、どうか俺を許さないで。

「どうして……？」

私は呆然と呟いた。
血溜まりを広げる兵士と、その血に濡れた剣を持つ青年を見比べる。
青年は黙ったまま視線だけは外さない。
その瞳には悲しみと諦めが浮かんでいた。

「殺した、の？ねぇ、答えてよ……」

青年の表情が痛みを堪えるように歪む。
否定しない彼に私は小さく首を振る。

「違う、そんなことが言いたいんじゃない」

責められるわけがない。
彼は私を守っただけ。
彼が剣を抜かなければ、確実に私は殺されていた。
でも、違う。
本当は違う。
彼を人殺しにしたのは私だ。
なら私は、私のやれることは。
たったひとつしかない。

「私は、」

泣くな、そう自分を叱咤する。
青年の瞳をまっすぐと見つめて言う。

「あなたを許さない」

彼がゆっくりと目をつむった。

握りしめた拳が痛くて、胸が、痛くて。
俯いた途端に目頭が熱くなる。
そして、彼が言った。

「許さなくていいから、傍にいさせてくれ」

答えることができなくて、私は俯いたまま立ちすくんだ。
そんな私を彼が優しく抱きしめて囁いた。

「許さないでくれてありがとう」

私はもう二度と彼に想いを告げることはできない。
私にできるのは彼を許さないことだけ。
彼を殺人鬼にしないことだけ。
彼を苦しませ、自分に嘘をつくことだけ。
私たちの贖罪はゆるされないこと。
彼は私に。
私はこの想いを。
許されない。

ずっと。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3667w/

贖罪。

2011年10月9日16時00分発行